

そよかぜ

第24号

発行：平成25年11月1日
発行責任者：病院長 安藤秀男
編集：中津川市民病院広報委員会

地域医療と産科医療

中津川市民病院 副病院長
産婦人科医師 篠原 正典



産婦人科分野で最近又デリアに取り上げられている

話題は、子宮頸癌ワクチンとその副作用であり、母体血を用いた新しい出生前遺伝学的検査であり、第三者からの卵子提供の問題であるといった倫理的観点から十分な

わたくしどもの理念

患者さまの立場を十分理解し質の高い医療を目指します

1. 地域医療における役割強化に努めます。
2. 患者さまの権利を尊重し、満足度向上を進めます。
3. 知識や技術向上のための教育強化に努めます。
4. 協働意識の醸成やコミュニケーションを図ります。
5. 健全経営を確立します。

検討を要する事柄が多くみられま

す。しかし身近な地域医療における産婦人科の話題は、以前ほど取り上げられていませんが全国的に状況の改善はみられていなく、この地域でも産婦人科医療の崩壊は徐々に近づいていると思われます。産婦人科の中でも特に問題となつているのは分娩を取り扱う産科医療で、産婦人科医の減少には歯止めがかかって、地方の周産期救急を受け入れている病院の産婦人科勤務医の減少が続いているためです。

産婦人科医療を志す若手医師は以前に比べ若干の増加はみられるものの、地方の病院勤務を嫌う傾向があります。もちろん原因はいろいろ考えられます。第一にリスクを回避したい意識が強いことがあります。少人数での勤務ではサポート体制が十分でないことへの危惧があり、若手医師の心配は当然のことと思われます。産科医療では数分の対応の遅れが母児に重

大な結果をもたらすことがあるからです。また症例の不足や偏り、遠方での研究会参加など研修環境への不安もあります。最近産婦人科医になる半数以上は女性であり、結婚・出産・子育ての問題も地方病院勤務を避ける傾向に拍車をかけていると思われます。

このような状況下で今後この地域で産科医療（周産期救急医療）を継続していく方策は、唯一つしかないと思います。それは病院分娩施設の集約であり、産科医をそこにできるだけ多く集めることです。（4〜5人は必要）そのためにはまずスタッフが勤務したくなるような条件を整えることです。その方法についてはいろいろあると思いますが、その取り組み具合で自治体当局の本気度が試されることとなります。また自治体はこの地域の産科医療の現況を住民に説明する義務があり、周辺の自治体とも協議して早急の対策を講じる必要があります。一度分娩業務を停止すると再開には非常な困難を伴い、地域の妊産婦への影響も大きく、地域の少子化をさらに進めることに繋がる事を懸念しています。

インフルエンザの予防について

今年もインフルエンザの時期がやってきます。
インフルエンザの流行に備え効果的な予防について案内します。



(1) インフルエンザの予防接種を受ける

ワクチンは完全な予防とは言えませんが、かかった場合でも小児や高齢者の重症化を防ぐことが知られています。

(2) 外出から帰宅したら、手洗いをを行う

手洗いをすることでウイルスを取り除くことは大変有効な方法と言われています。咳やくしゃみなどで飛んだウイルスが手すりや電話など共有して触るものに付着していると、知らずに触って手に付くことがあります。

(3) 咳や鼻水が出てきたら、とにがくマスクをすること

インフルエンザの主な感染経路は咳やくしゃみの際に口から発生される小さな水滴（飛沫）による飛沫感染です。咳や熱などの症状のある時はマスクを着用し、人にうつさないようにしましょう。飛沫を浴びなければインフルエンザに感染する機会は減少します。

そしてもっとも大切なのは、体の抵抗力を高めるために、十分な休養とバランスのとれた栄養摂取を日頃から心がけましょう。もし、発熱があり、咳、のどの痛みや関節の痛み、全身倦怠感などの症状が出てきたら、医療機関を受診しましょう。

感染予防対策室 感染管理認定看護師
大山 康世



インフルエンザ予防接種のご案内



中津川市民病院では、下記の要領でインフルエンザワクチンの接種を行います。

大人(高校生以上)

◆ 当院へ現在、通院されている方

接種の期間：平成25年10月21日(月)～※土・日・祝日を除く
・各診療科へ受診時にご相談ください。
(心療精神科・眼科・歯科口腔外科では接種を行いません。)

◆ 当院へ初めてかかる方(診察券をお持ちで、現在通院されていない方を含む)

接種期間：平成25年10月23日(水)～12月25日(水)
接種の日時：水曜日14時00分～15時00分(1日20人まで)
接種の場所：内科外来
・電話にて予約をお取りください。
(TEL 66-1601 平日14時00分～17時00分)

(診察券がある方は、あらかじめご用意いただきお電話をお掛けください。)

- ・予約状況により、希望される期日に接種できない場合がありますので、ご了承ください。
- ・電話が混み合う場合がございますので、しばらくお待ちいただいでからおかけ直してください。
※費用は自己負担となります。(4,200円)
※高齢者の方は各市町村より補助(公費負担)が受けられます。
補助についての詳細は、お住まいの各市町村にお問合わせください。
- ※当院で確保したワクチンがなくなり次第予約を終了いたしますので、早めの予約・接種をお願いいたします。

子ども(生後6ヶ月から中学生まで)

接種開始日：平成25年10月21日(月)～接種の場所：小児科外来

接種の日時：月曜日 14時30分～

(1日30人まで・受付は14時40分まで)

火曜日 15時00分～(1日40人まで・受付は15時10分まで)

【来院時の予約】 小児科外来の受付にて予約をしてください。

【電話での予約】

電話予約は平日15時00分～16時30分までをお願いします。
電話交換にて「子どものインフルエンザ予防接種の予約」とお伝えください。(TEL 66-1251 小児科外来)

※完全予約制となります。当院にかけられたことのない方は、来院のうえ予約をお願いします。

※1回目を11/19までに接種できない場合、2回目の補助が受けられません。
※原則的に小児は2回の接種が必要です。13歳以上の方は1回のみ接種も可能です。

※費用は自己負担となります。(1回目4,200円 2回目2,100円)

※中津川市・恵那市の方で1歳から中学生までの方は、補助(公費負担)が受けられます。補助についての詳細は、各市にお問合わせください。

お問い合わせ先 中津川市民病院 TEL 66-1251(代)

現在、かかりつけの外来診療科へお問い合わせください。

(小児の方は小児科外来・当院へ初めてまたは現在通院されていない方は内科外来)

糖尿病教室のお知らせ

糖尿病の治療は毎日の規則正しい生活の積み重ねです。
中津川市民病院では、糖尿病に関する正しい知識を身に付けていただくために糖尿病教室を開講しています。

予定日/平成25年11月13日(水)午後3時～

糖尿病と心臓病(循環器内科)林医師

平成26年1月9日(木)午後3時～

糖尿病とお口の関係(口腔外科)畑中医師

平成26年3月12日(水)午後3時～

糖尿病と腎障害(腎臓内科)加藤医師

場 所/多目的ルーム(健康管理センター横)

他に入門シリーズも開講しています。院内掲示をご覧ください。
日付、内容は変更になる場合もありますのでご了承ください。

★予約・費用は不要です。ぜひお越しください。



お問合せ先 総合病院中津川市民病院

☎0573-66-1251(代表)

担当：糖尿病療養指導チーム

林 泰子(検査科)・勝 美佳(薬剤部)・成瀬 美保子(看護師)

「第3回中津川スキルアップセミナー」

医学部学生・若手医師を対象とした「第3回中津川スキルアップセミナー」を開催し、23名の参加がありました。このセミナーは、将来当院へ勤務をする医師を確保する目的で行っています。

全国的に地方の医師不足は深刻な問題で、医師の確保は主に大学などからの医師派遣に依存しています。しかし大学の若手医師には、中津川は「行ったことはないが、名古屋から距離がある」というイメージがあり、当院への赴任を断るケースがあります。同様の理由で当院での研修医師への応募も少ない状況です。

そこで当院で、「医師として必要な技術を、楽しく真剣に身につけるセミナー」を開き、「当院を実際に見て」親しみを持っていただくことで、「名古屋と中津川との心理的距離」を縮めています。

セミナー後のアンケートなどでは、「とても勉強になった」「先生やスタッフの方々の熱心さが素晴らしかった」「来年はクラスメートや後輩をつれてきます」と大変好評でした。またこのセミナー参加者から初期研修医に応募が2名あり、医師確保事業の効果が徐々にできてきている状態です。

ふれあい看護体験・職業体験、 中学生職場体験を実施しています。



5月は看護の日の行事として一般の方、高校生を対象に実施しています。

8月は高校3年生を主な対象として実施しています。看護体験は看護業務や、患者さんとのコミュニケーションの取り方、看護師の業務見学を通して看護の道を目指してくれる事を願っています。職業体験は主に見学になりますが病院の雰囲気を経験してもらえます。

中学生の職場体験は8月～10月にかけて体験学習の場を提供しています。

看護のステキなところもつらくてきびしいところも見ることができました

大変な仕事だと思いました。やさしく接していてあこがれました

25年参加者数（9月現在）

5月14日	看護体験	11名
8月7日	看護体験	11名
	職業体験	5名
8月8日	看護体験	16名
8月	中学生体験学習	6名
10月	中学生体験学習	5名



「がん患者リハビリテーション」の新設

がんは日本人の死亡原因の第1位であり年々増加傾向にあります。わが国では疾病対策上の重要課題として対策が進められ、がんが“不治の病”であった時代から“がんと共存”する時代になってきています。

そうした背景を受け、2010年度の診療報酬改定で新たに「がん患者リハビリテーション」が設立され、当院でも時代に遅れることなく医師・看護師・リハビリ療法士がチームを組み、厚生労働省が指定した研修を履修し、がんの入院患者様に対しリハビリを行っています。

具体的には手術目的で入院された方には術前から関わり、評価・筋力強化などのリハビリを開始することで、術後早期からの離床（ベッドから離れること）を促します。すでにがんを患っており、化学療法（点滴治療など）や放射線治療目的あるいは状態が悪化されたために入院をされた方には、その方がその方らしく生きられるように療養生活上の質の維持・向上を目指し、痛みや浮腫（むくみ）の軽減あるいは筋力低下を防ぐための方法をお伝えし実施しています。

当院の「がんリハ」はスタートしたばかりですが、日々必要性を強く感じています。がんで入院を余儀なくされた患者様が安心して治療を受けられるよう、我々ががんリハチームは日々努力してまいりますのでよろしくお願いいたします。

【問い合わせ先】リハビリテーション技術科 三宅ひとみ

中津川市民病院各科診療担当医表

平成25年10月1日現在

		月	火	水	木	金
内科	一診(循環器)	横 家	林	青 山	青 山	林
	二診(消化器)	亀 山	大 塚	佐 橋	亀 山	大 塚
	三診(腎臓・他)	梅 本 (循環器)	二 村 (腎臓)	梅 本 (循環器)	加 藤 (腎臓)	PM石田 (血内)
	四診(総合診療初診)	竹 本	加 藤	高 橋	丹 羽	安 藤
	五診(呼吸器・他)	A 木村(呼吸器) M (健診のみ)	鈴 木 (呼吸器)		内 藤 (代謝)	十九浦 (呼吸器)
	六診(内分泌・他)		大 竹 (内分泌)	ベテラン クリニク (第1・3)	中 島 (内分泌)	P M 隔週 (禁煙外来)
	七診(消化器)	佐 橋			西 尾	西 尾
	八診(総合診療再診)	高 橋	竹 本	丹 羽	加 藤	高 橋
	透視			西尾・大塚		佐 橋
	内視鏡 AM	西 尾 大 塚	亀 山	西尾・大塚	佐 橋	森 瀬
PM	桑原・大塚 西尾	亀山・佐橋 西尾	大塚・亀山 西尾	佐橋・浅井 大塚	森瀬・亀山 佐橋	
透 析	血液浄化センター					加藤・二村
神経内科	一診	飯 塚	今 村	稲 垣	今 村	稲 垣
	二診	曾 根	本 田	米 山	岡 田	飯 塚
小児科	一診	安 井		安 井	安 井	
	二診			加 藤 (循環器)		杉 山
	三診	石 原 (神経)	小 島	安 藤	藤 巻	小 島
	午後 一診	安 藤	安井・ 予防接種	乳児健診	安 井 (アレルギー)	
	二診					杉 山
	三診	石 原 (神経)				小 島
外科	一診	丸 山	丸 山	橋 本	高 野	橋 本
	二診	橋 本	高 野	高 野	関 谷	関 谷
	内分泌乳腺外科 午後2時		関 谷			
脳神経外科	一診	永 井	吉 本	永 井	日石/川口	出 口
	二診	口 脇				

		月	火	水	木	金	土
健康管理センター		安 藤	横 家	横 家	横 家	林	
歯科 口腔外科	一診	畑 中	畑 中	高 橋	澤 木	澤 木	
	二診	澤 木	高 橋		畑 中	畑 中	
	三診		澤 木		高 橋	高 橋	
泌尿器科	一診	田 中	和志田/ 日下	田 中	田 中	田 中	
	二診 10時	和志田			和志田		
整形外科	一診	丸 山	古 川	酒 井	丸 山	土 方	
	二診	土 方	西 塚	古 川	酒 井	関	
	初診	古川/ 酒井	酒 井	丸 山	土 方	古 川	
形成外科				鳥山/ 高成			
産婦人科	初診 再診	篠 原	風 戸	風 戸	篠 原	風 戸	
	再診	風 戸	今 井	篠 原	助産外来	一 杉	
眼科	一診	岡 田	岡 田	岡 田	岡 田	岡 田	
	一診 午前	加 藤	加 藤	中 山	中山/ 加藤	中 山	
	二診 午後	中 山	小 島	加 藤	西 村	加 藤	
	二診 午後					加 藤	
皮膚科	一診	後 藤	後 藤	室	後 藤	小 川	
放射線科	放射線治療		牧	伊 藤			
	読影(午前)	P 小	M 原		桜 井	泉・ 北川	
検査科(病理)		森			森		
心療精神科	一診	森	森	森	森	森	
	二診	今 井					
心理相談	一診	中 西	中 西	中 西	中 西	中 西	
	二診	袴 田		袴 田		袴 田	
阿 木 診療所	午前		丹 羽		高 橋		
	午後		丹 羽		高 橋		弓 倉

※都合により変更となることがありますので
ホームページ又は予約センターにてご確認下さい

この色表示の氏名は、非常勤を示しています。

入院案内センターのお知らせ

当院では7月より入院予定の患者さんを対象とした「入院案内センター」を開設いたしました(一部の診療科や疾患を除く)。

センターには事務職員1名、看護師1名を配置しています。事務職員からは入院関係書類の説明と医療費に関する質問をお受けします。看護師は、過去の病気やアレルギーの有無、服用薬剤などをチェックするとともに休止薬や生活の注意事項などについて説明いたします。

これまででは事前に休止すべき薬剤をうっかり継続していたために、予定された手術や検査を中止することがありました。また、薬や食物のアレルギーに関して連絡が不十分なことも見受けられました。一方で、患者さんからは説明時のプライバシーの問題や医療費の概算を知りたいなどの訴えもありました。

入院案内センターはこれらの問題の解決することを目的に開設したものです。今後は患者さんとともにより良い仕組みを作っていきたいと考えていますので、ご意見がありましたら遠慮なくお申し出ください。

入院案内センター案内図

